

機関番号：32702

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2009～2010

課題番号：21730324

研究課題名 (和文) インド財閥傘下企業の所有と支配

研究課題名 (英文) Ownership and Control of Indian Zaibatsu Industries

研究代表者

ビシュワ ラズ カンデル (BISHWA RAJ KANDEL)

神奈川大学・経営学部・非常勤講師

研究者番号：70523873

研究成果の概要 (和文)：

インドの財閥における所有・家族支配の特質およびインド財閥傘下の上場企業のコーポレート・ガバナンスについて研究した。具体的に明らかにできたのは、インド財閥において「所有と支配」の未分化の状態が傘下企業の株式保有を通じて依然として続いている点である。一方、財閥は事業の規模拡大や多角化をする際、多くの専門経営者を導入し、近代的な経営方針へ移行しつつあるように見える。つまり、経営体制については、所有と経営の分離をせず、所有する一族や財閥内部昇進者と専門経営者との合理的結合を図りながら財閥経営をするに至っているのである。そして、インドの経営体制の実態の模索という研究分野が、今後の研究課題として浮かび上がったのである。本研究により、独自性と斬新性のあるインド財閥の所有・支配・経営について明らかにすることができたこと評価することができる。

研究成果の概要 (英文)：

This is the research of Indian Zaibatsu industries, focusing to the Ownership and Control of Indian Zaibatsu companies. Concretely, it was able to clarify that the "Ownership and control" are still attached together. However, expanding of the business scale and diversifying, the Zaibatsu seems to shifting modern management policy with appointing a lot of Professional Managers.

In other word, it has not separated the ownership and management, Zaibatsu Still controls the family members. And in the future it is needed to research about the managerial system of Indian Zaibatsu, originality of this research is to clarify the ownership, rule and the management system of an Indian Zaibatsu.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000円	210,000円	910,000円
2010年度	600,000円	180,000円	780,000円
年度			
年度			
年度			
総計	1,300,000円	390,000円	1,690,000円

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：インド財閥、コーポレート・ガバナンス、ピラミッド型、所有と経営、企業経営、家族経営

1. 研究開始当初の背景

インドの財閥における所有・家族支配の特質およびインド財閥傘下の上場企業のコーポレート・ガバナンスが、インド内外の一般投資家や提携パートナーの中長期的利益にいかなる影響を及ぼすかを調査する。

2. 研究の目的

インドの財閥では、未だに所有と経営が分離しておらず、創業者家族による独裁的経営色が濃くなることは否めない。さらに、小株主に対する説明責任の欠如、情報の透明性の欠如などといったコーポレート・ガバナンスの諸要素が徹底されていないことなどが基本問題として挙げられる。そこで、インドの財閥では、有効的なコーポレート・ガバナンスを企業経営に反映させていくことが可能であるのか、という問題がある。インド国内外の先行研究を踏まえ、現地での聞き取り調査を通じてこの問題を明らかにする。

3. 研究の方法

インド企業のガバナンスを明らかにするため、文献研究のみならず、インド財閥のディスクロージャーに関わる部門等への聞き取り調査を行う。

4. 研究成果

(1)インドの財閥における所有・家族支配の特質およびインド財閥傘下の上場企業のコーポレート・ガバナンスについて研究した。本研究で具体的に明らかになった点は、インド財閥において「所有と支配」の未分化の状態が傘下企業の株式保有を通じて依然として続いている点である。一方で、財閥は事業の規模拡大や多角化をする際、多くの専門経営者を導入し、近代的な経営方針へ移行しつつあるように見える。つまり、経営体制については、所有と経営の分離をせず、所有する一族や財閥内部昇進者と専門経営者との合理的結合を図りながら財閥経営をするに至っている点である。

(2)インド財閥は意思決定の側面、人事の側面など情報開示に対して閉鎖的であるため、財閥経営に関する全般的な実態把握に限界がある中、本研究は、変動するインド財閥の経営体制の実態把握に一定の貢献をもたらしたといえる。本研究の成果は、独自性と斬新性のあるインド財閥の所有・支配・経営について明らかにした点である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

①ビシュワ ラズ カンデル「インド財閥の経営構造と戦略」博士学位論文、査読有、2011年03月。

②ビシュワ ラズ カンデル「タタ財閥の企業集団管理」『経営教育研究』日本経営教育学会、第12巻2号、査読有り、2009年6月、69-80頁。

③ビシュワ ラズ カンデル「Reliance財閥の支配構造」『国際経営論集』神奈川大学、第41号、2011年03月、77-89頁。

④ビシュワ ラズ カンデル「M&M財閥の経営構造と戦略」『国際経営論集』神奈川大学、第40号、2010年10月、41-53頁。

⑤ビシュワ ラズ カンデル「インド財閥の形成と組織構造—Aditya Birla財閥の事例—」『国際経営論集』神奈川大学、第38号、2009年10月、93-104頁。

[学会発表] (計5件)

①ビシュワ ラズ カンデル「インドの株式会社制度と財閥の経営構造」日本経営学会関東部会シンポジウム 立教大学 2010年12月11日。

②ビシュワ ラズ カンデル「南アジア型コーポレート・ガバナンスの現状と問題点—新たな企業システムの探究—」第84回日本経営学会 全国大会 石巻専修大学 2010年9月3日。

③ビシュワ ラズ カンデル「インド企業経営の現状」インド工科大学 (IIT, Madras, INDIA) 2009年10月22日。

④ビシュワ ラズ カンデル「インド財閥企業のコーポレート・ガバナンス」東アジア経済経営学会 第24回日韓経済経営国際学術会議 2009年8月20日。

⑤ビシュワ ラズ カンデル「インドの財閥傘下企業の経営実態」日本経営教育学会 第59回全国研究大会 2009年6月28日。

[図書] (計1件) 1

1. ビシュワ ラズ カンデル「経営組織の編成原理」佐久間信夫・犬塚正智編著『現代経営管理要論』創成社、2009年、159-172頁。

6. 研究組織

(1)研究代表者 ビシュワ ラズ カンデル
(BISHWA RAJ KANDEL)
研究者番号 : 70523873

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし